

4 施工

Q-34 フラットデッキと梁との接合方法にはどのような方法があるか？

A

フラットデッキは敷込み後直ちに梁と接合して下さい。接合はデッキの敷込みからコンクリート打込み終了までの飛散防止や落下防止等、安全確保のため確実に行う必要があります。以下に接合方法を記述します。(本文の幅方向、長手方向の表示を図-1に示す)

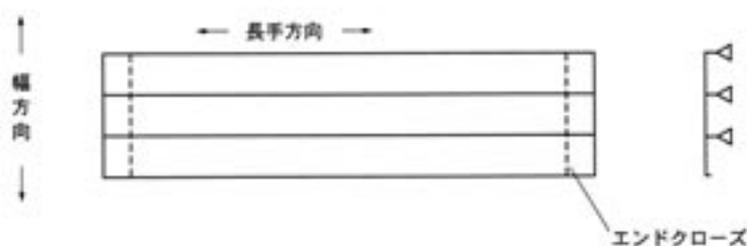


図-1 フラットデッキの方向

1. RC造およびSRC造の場合

フラットデッキと合板梁型枠の接合は、フラットデッキおよび調整プレートを梁に10mmのみ込ませて、横さん木に釘止めします。

SRC造でフラットデッキを先行敷きし、作業床として使用するために、鉄骨梁に支持されたデッキ受け(形鋼等)とフラットデッキを溶接する場合には、S造の場合に準じて下さい。

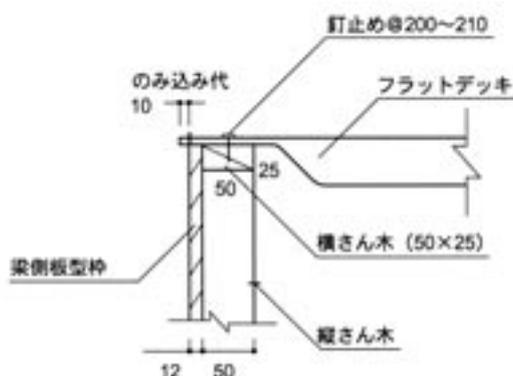


図-2 RC造、SRC造の長手方向の接合

接合位置

・幅方向

フラットデッキ両端部を200～210mmピッチで釘止めします。(図-2参照)

・長手方向

横さん木の中央部を600mmピッチ以下で釘止めします。

2. S造の場合

フラットデッキと鉄骨は、アークスポット溶接または隅肉溶接で接合するのが一般的です。溶接位置は、フラットデッキのエンドクローズを梁に50mmのせて幅方向に200～210mmピッチで溶接します。また、長手方向では900mmピッチ以下で溶接します。(図-3参照)なお、フラットデッキと鉄骨との隙間が大きいとアンダーカットや焼き切れ等の欠陥が生じるため、隙間が2mm以上あるときはデッキの溶接部をハンマー等で叩いて、鉄骨に密着させて溶接して下さい。

溶接の詳細については「フラット指針」5.5 接合を参照して下さい。

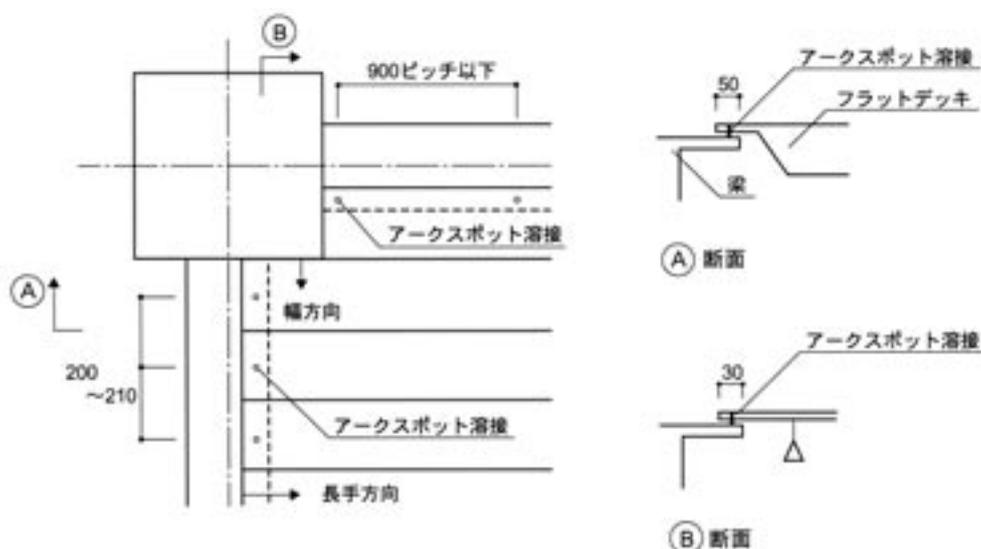


図 - 3 S造の場合の接合

3. 地中梁、PC梁の場合

フラットデッキおよび調整プレートの梁へのかかり代は30mm以上としますが、安全性確保のためフラットデッキに“ずれ止め”として継ぎ筋を長手方向両端部各1箇所に溶接し、スタラップまたは隣接するデッキに固定し接合することを推奨します。(図-4参照)

なお、梁へのかかり代30mm以上が地中梁、PC梁の耐力に影響すると判断された場合の対応は、Q-10を参照して下さい。

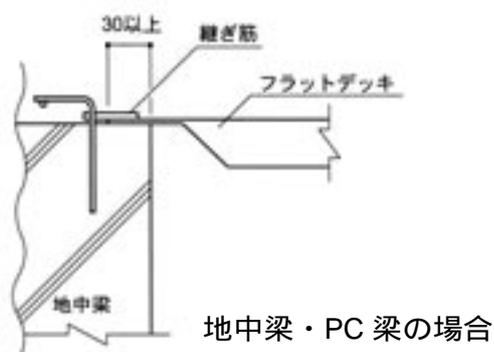


図 - 4 地中梁、PC梁の場合の接合